

放射線リスク学習会 & 測定

7月28日、講義の後付近を測定



7月28日、ルミナス宮前平集会所にて、市民科学研究室の上田昌文さんを講師にお招きして、放射線リスク学習会・測定会を開催しました。暑い中、ネットメンバー、地域の方、大学生など20名ほどの参加がありました。

前半「放射線リスクのとりえ方・減らし方」の講義では、3月11日以降何が起こったのか、そして私たちは安全に暮らすためにどうすればいいのか、という視点でわかりやすくお話いただきました。基準値について、また土壌汚染による外部被曝、汚染物の飲食による内部被曝、除染の方法についても具体的な説明があり、各種メディアによりもたらされる断片的な情報がすっ

きり整理された気がします。参加していた学生さん数人は子どもの発達について専攻しているようで、特に乳幼児や妊婦、授乳中の母親のリスクの話が興味深かったようです。今さまざまな方法で除染しても、最終的に放射能が凝縮されて高濃度になる汚泥、焼却灰の最終処理が大きな問題になっていることに、脱原発を速やかに進めることの必要性を改めて感じる講義でした。

講義の後は近隣の公園で、実際に放射線の測定をしてみました。測定機は市販されているもので、放射線の強さの単位ベクレルを人体への影響を示す単位シーベルトに換算した数値が表示されます。地面上5cm、50cm、1mを測るのが一般的です。上田さんから測定の概要の説明を受け、機器の使用法を確認して、土の面、砂場、草むらなど数か所を、地面上50cmで測定しました。風が吹くと数値が変化することもあり、湿った草むらが一番高い数値を示しました。場所を変え、カップパーク鷺

市内5か所のモニタリングポストを調査

8月5日、塩浜モニタリングポスト



川崎オフサイトセンターには5つのモニタリングポストがあり常時環境放射線測定をしています。オフサイトセンターとは、JCO東海事業所の臨界事故の後、原発や放射性沼の水辺や木製デッキの上なども測定したところ、風で移動しやすいのか数値が低く出ました。やはり湿っていて汚染がとどまりやすい場所の数値が高いようです。問題になった牛の稲わらや腐葉土などの高汚染もよく実感できました。

机上の講義だけでなく、こうしたフィールドワークをみんなで体験することで、問題意識をもつ地域の市民の輪を広げていきたいものです。

(菅見ゆう子)

物質使用施設の事故に対応するために設置されたもので、モニタリングポストはγ線を測定していますが、東芝の研究所が臨界実験をしている関係からか、研究所に一番近い浮島測定所は中性子線の測定もしています。(JCOの臨界事故は中性子線による被曝)

震災後、福島第一原発のメルトダウンにより大量の放射線が大気中に拡散し、神奈川県でも3月15日がピークでした。現在、環境放射線の数値は落ち着いていますが、浮島のモニタリングポストの値はピーク後も0.06マイクローシーベルトで推移しています。6月に青葉区の若林智子県議と宮前ネットのメンバーで見学した川崎オフサイトセンターでは、福島事故前から高く、コンクリートに囲まれている

浮島の設置場所は、臨海鉄道の末広町駅構内、東芝の研究所正面で、測定値は0.087から0.095でした。この地点の数値が高いのと東芝の研究所の関係は不明です。路盤剤ではないかという見方もありますし、臨海鉄道は北部の焼却灰を浮島の埋め立て地まで輸送しています。推定できることはいくつかありますが、今の時点では原因を特定することはできませんでした。

殿町のモニタリングポストは両脇を建物に挟まれていました。塩浜は高架道路のすぐ脇にあります。千鳥町は埠頭用地の中で広い敷地内に、大島は川崎区建設センター内設置されています。どのモニタリングポストにもエアコンの室外機が置かれていて高温による誤差への配慮が見られました。

(渡辺あつ子)

8月5日測定結果

平均値 (μsv)

浮島	0.092
殿町	0.079
塩浜	0.072
千鳥町	0.083
大島	0.086